

# 「Duane 症候群の手術前後における眼位・眼球運動変化」に関する 研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

**研究期間：平成 29 年 11 月 28 日～平成 30 年 8 月 31 日**

## 〔研究課題〕

Duane 症候群の手術前後における眼位・眼球運動変化に関する研究

## 〔研究目的〕

Duane 症候群は外転障害、内転時眼球後退および瞼裂狭小をきたす先天性眼球運動異常です。病因に外直筋の背理性神経支配がある場合、外直筋は本来の作用方向である外転時ではなく内転時に筋肉を収縮させるため、眼球は内転時に上方あるいは下方へ偏位し、内直筋や外直筋に対する手術のみでは眼位矯正が出来ないことがあります。そこで 1996～2016 年に受診した本症例のうち、内直筋・外直筋の手術を行った本症例の手術前後における眼位等を検討します。

## 〔研究意義〕

背理性神経支配に起因する先天性眼球運動異常の手術治療効果を研究し、有効な治療法を検討します。

## 〔対象・研究方法〕

1996～2016 年に本院眼科を初診し、当科で初回手術を受けた Duane 症候群患者の手術前後における眼位等の視機能データを、カルテから後ろ向きに調査・研究します。

## 〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院眼科

## 〔個人情報の取り扱い〕

取り扱うデータは初診時年齢、性別、受診理由、眼球運動異常からみた病型分類、患側、眼位、弱視の頻度と種類、両眼視機能（治療前後）、治療方法、治療により改善出来た所見と改善出来なかった所見とし、すべて匿名で処理します。データは可能な限り数値のみでインターネットと繋がっていない独立したコンピュータに電子データとして入力し、データファイルはパスワードを付け保管します。研究終了後、「研究終了後資料保管申請書」に保管対象となる記録リストを添付し、記録書類一式を倫理委員会事務局に提出し、TARC（帝京大学臨床研究センター）にて 10 年保管の後、情報漏えい・滅失・き損等に配慮して記録類一式を廃棄します。そののち、TARC 事務局は廃棄記録を作成し保管します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 医学部眼科学講座・兼任准教授 林 孝雄

研究分担者: 医学部シニアレジデント 吉津和真

住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 帝京大学医学部附属病院眼科外来

TEL: 03-3964-1211(代表) [内線 30327]